

JR西日本グループ中期経営計画2008-2012見直し

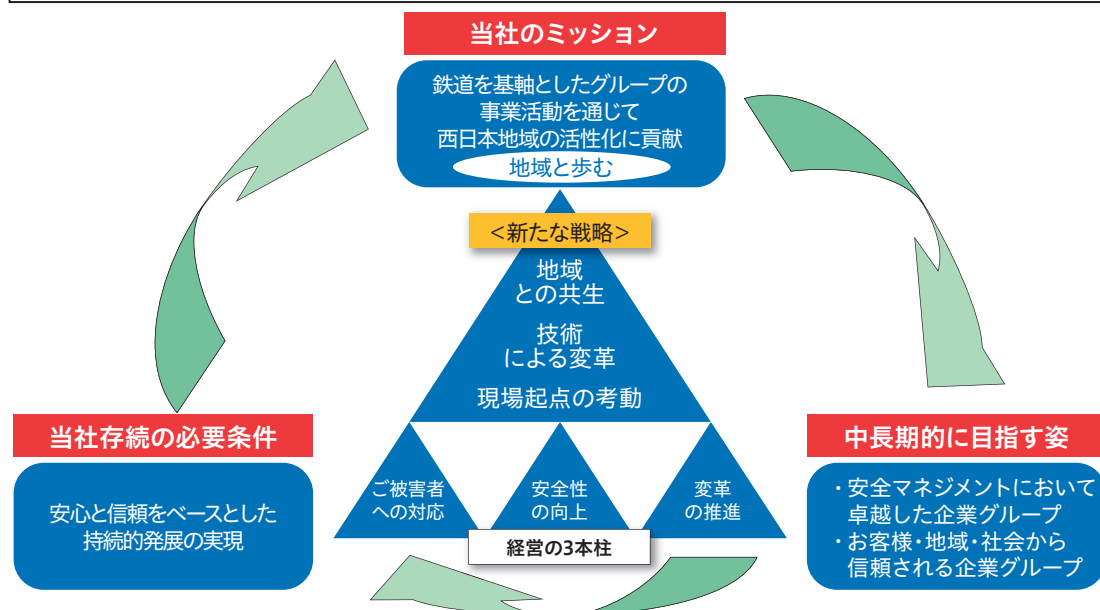
平成22年10月、「JR西日本グループ中期経営計画2008-2012」（平成20年5月策定）の見直しを行い、より長期的な持続可能性に経営の力点を置きつつ、あらためて中期的な経営の方向性の明確化と具体化を図ることとしました。

見直しの背景と目的

- 福知山線において重大な事故を惹き起こした当社は、安全を最優先する企業風土の構築を目指して、2008年度初から5カ年計画である「安全基本計画」の推進にグループを挙げて全力で取り組んでおります。
- 2008年5月には、「企業理念」を実現するという経営の原点に立ち返り、その実現に向けた中長期戦略を示した「JR西日本グループ中期経営計画2008-2012」を策定しました。
- しかしながら、2008年秋以降の急激な景気悪化、および2009年3月以降の高速道路料金引下げ政策等により、「JR西日本グループ中期経営計画2008-2012」策定時から、当社を取り巻く経営環境が激変しました。
- 加えて、2009年秋には、コンプライアンス上の重大な問題が判明したことにより、福知山線列車事故のご被害者の皆様のご心情を深く傷つけ、世の中からの信頼を大きく失墜させることとなりました。
- こうした、かつてない厳しい状況に直面していることを踏まえ、より長期的な持続可能性に経営の力点を置きつつ、2012年度までの中期経営計画を見直し、改めて中長期的な経営の方向性の明確化と具体化を図ることといたしました。
- 私たちは、この新しい計画のもと、信頼の回復と業績の回復に向けて、グループを挙げて社員が一丸となり、全力で取り組んでまいります。

経営ビジョン

私たちは、福知山線列車事故を決して忘れず、企業理念の実現に向けて、安心と信頼をベースとした持続的発展の実現を図りつつ、事業活動を通じて西日本地域の活性化に貢献し、安全マネジメントにおいて卓越し、お客様・地域・社会から信頼される企業グループを目指します。



「経営の3本柱」は不変



今回の中期経営計画の見直しにおいても、以下の「経営の3本柱」を強力に推進し、安全第一を積み重ね、お客様から安心、信頼していただける鉄道を築き上げることに、グループを挙げて取り組んでまいります。

被害に遭われた方々に誠心誠意と受け止めていただけるような取り組み

- ご被害者に真摯に向き合い、弔問やお見舞いなどを通じて、今後もご被害者の思いを丁寧かつきめ細かく受け止めてさせていただくよう努めてまいります。あわせて、安全性向上の取り組みのご説明や当社に対するご意見・ご質問をお伺いさせていただく場として、ご被害者に対するご説明会を継続して実施してまいります。
- また、将来にわたってご被害者の様々なご意見・ご要望をお伺いしご相談に応じることが出来るよう、対応の窓口を堅持してまいります。加えて、ご被害者の心のケアや将来の不安を少しでも和らげていただけるための取り組みについて、今後もご被害者のご意見等を承りながら具体的な検討を進め対応してまいります。

安全性向上に向けた取り組み

- 当社は、安全性の向上に向け、2008年に「安全基本計画」を策定し、

「お客様の死傷事故ゼロ、社員の重大労災ゼロへに向けた体制の構築」

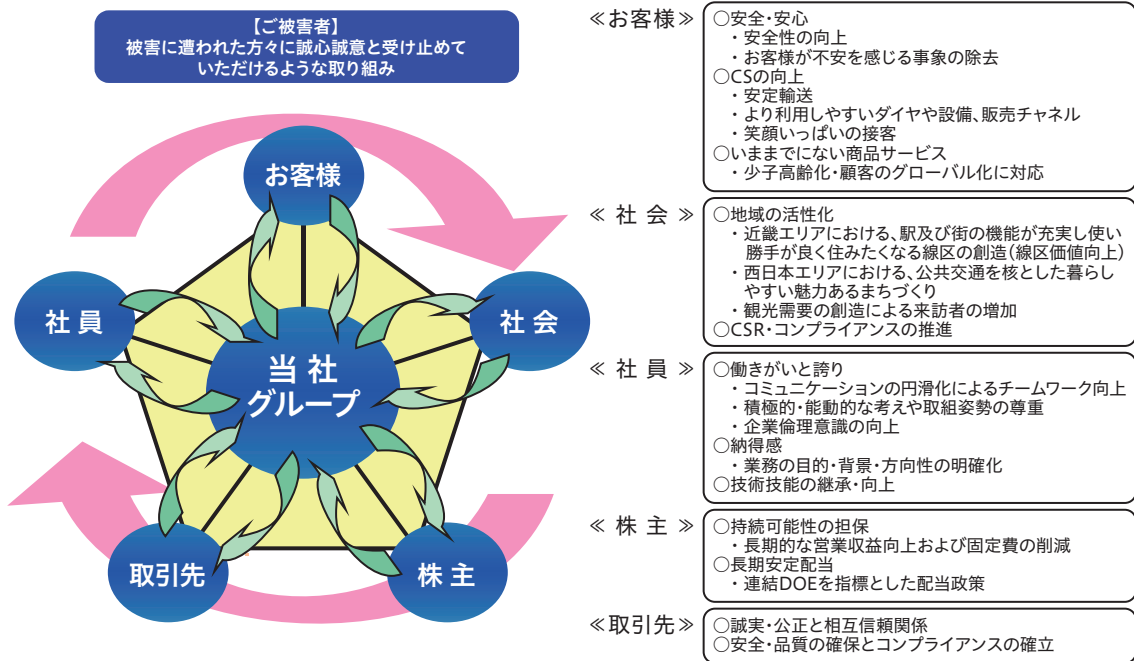
を到達目標として掲げ、2008年5月公表の中期経営計画においても改めて経営目標として掲げました。この目標の達成、そして安全基本計画の完遂に向け、引き続きグループを挙げた取り組みを推進してまいります。

変革の推進

- 過度の上意下達の解消に向けた取り組みに加え、事故調査に係る情報漏えい等の働きかけなどの反省を踏まえて取りまとめた改善策を実行に移すことにより、コーポレートガバナンスの強化や、風通しのよい組織づくりを通じた企業風土の変革にも、全社を挙げて取り組んでまいります。

ステークホルダーに提供・共有する価値

私たちは、長期的視点からステークホルダーとの調和を図ることにより価値の好循環を生み出し、全体としての価値拡大(プラスサムの価値実現)を目指し、その成果をステークホルダーの皆様と共有してまいります。



経営ビジョンの具現化に向けた新たな戦略

<新たな戦略>

地域
との共生
技術
による変革
現場
起点の考動

私たちは、経営ビジョンの具現化に向けて、「JR西日本グループ中期経営計画2008-2012」に掲げた経営目標と戦略を堅持しつつ、今回新たに「地域との共生」「技術による変革」「現場起点の考動」という3つの戦略を掲げ、グループを挙げて全力で取り組んでまいります。

地域との共生

- ・鉄道事業を核に事業を営む当社は地域を離れては存在できません。地域起点の発想に立って、地方自治体や他鉄道会社等との連携を強化し、
トータルでWIN-WINの協力関係を構築してまいります。
- ・具体的には、
 - ✓近畿エリアを中心とした線区価値の向上
 - ✓西日本エリアにおけるプラスサム実現
 - ✓観光を契機とした地域活性化に、グループ一体で取り組むことを通じて、地域の皆様のより豊かな暮らしを支えてまいります。

技術による変革

- ・本格的な人口減少時代への突入を見据え、当社の持続的発展を担保していくために、
 - ①技術継承と実務能力・技能向上
 - ②高度技術による課題解決の推進
 - ③鉄道オペレーションのシステムチェンジに向けた挑戦を開始します。
- ・システムチェンジの具体的な方向性としては、情報通信技術や汎用技術を活用し、
 - ✓新しい保安システムの開発
 - ✓省エネルギーな鉄道システムの開発
 - ✓ネットワーク技術を活用した列車運行・保守管理システムの革新
 に取り組み、更なる安全性の向上、鉄道運行にかかる固定費の低減、メンテナンスの省力化を図ります。

現場起点の考動

- ・現場社員一人ひとりの能力発揮が安全性やお客様満足度を向上させる原動力となること、コスト削減・技術開発といった課題解決の糸口が現場にこそ存在していること、これらを再認識し、
「すべての起点は現場から」を行動原則に掲げ、現場の課題を経営課題として、今まで以上に正面から取り組んでまいります。
- ・具体的には、企業再生や変革に向けた取り組みの成果も踏まえ、
 - ✓三現主義(現地・現物・現人)の徹底
 - ✓現場での自律的な問題解決
 - ✓ボトムアップでの問題解決
 - ✓施策検討や意思決定のプロセス簡素化
 といった観点から、仕事の進め方を現場起点に再構築してまいります。

経営ビジョンの具現化に向けた重点戦略

存立基盤の強化

～安心、信頼していただける
鉄道を築き上げる～

1 より高い安全レベルの構築による安心の追求

2 九州新幹線の全線開業・相互直通運転開始

3 新しい大阪駅「OSAKA STATION CITY」開業

事業基盤の強化

～新たな価値を創造し、
お客様・地域・社会に提供する～

4 地域との共生 ◎近畿エリアを中心とした線区価値向上

5 地域との共生 ◎西日本エリアにおけるプラスサム実現

マネジメントの変革

～マネジメントを変革し、
価値提供をより確かなものにする～

6 技術による変革

7 現場起点の考動

「JR西日本グループ
中期経営計画
2008-2012」
に掲げた戦略の
着実な推進

今回新たに
掲げる
戦略

以降の具体的な戦略、財務指標等については、掲載を省略しています。

詳しくはホームページhttp://www.westjr.co.jp/company/ir/pdf/20101028_01.pdfをご覧ください。